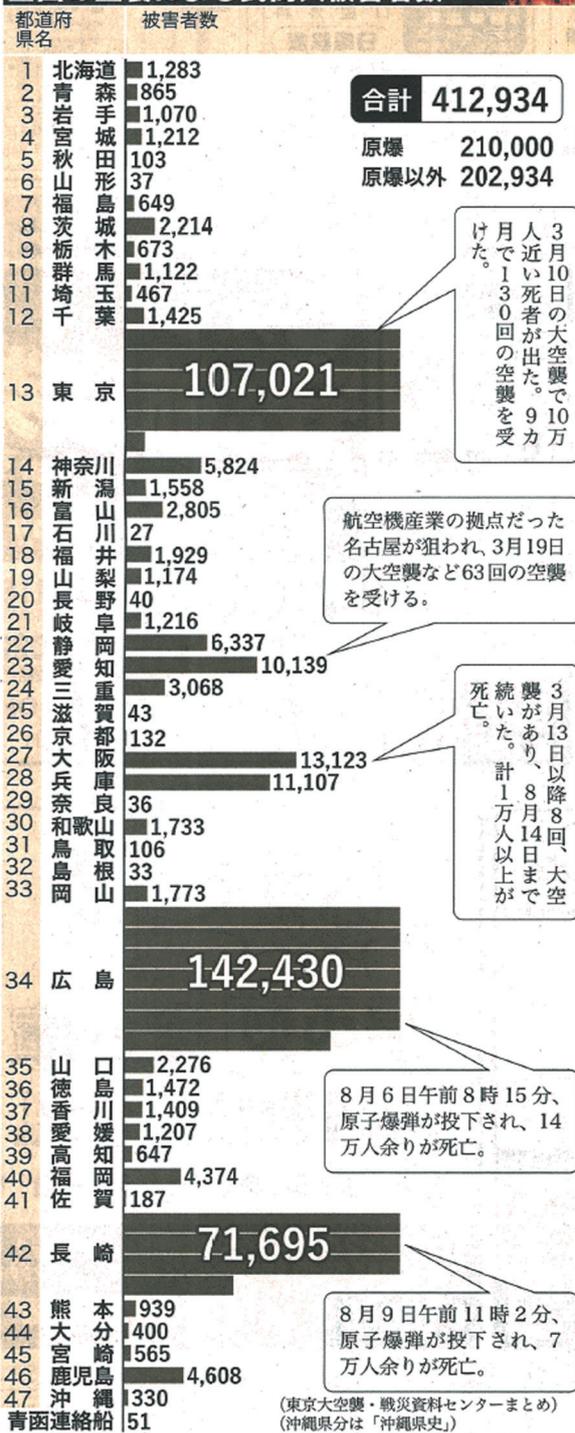


# 全国の空襲被害

## 全国の空襲による民間人被害者数



# 400市町村、41万人死亡

太平洋戦争中、米軍は日本本土に16万8000もの爆弾・焼夷弾を投下した。全ての都道府県で約400の市町村が空襲を受け、41万人以上の民間人が死亡した(沖縄の地上戦の死亡者は除く)。米軍の空襲は当初、軍事標的だけを狙って空爆する「精密爆撃」だったが、次第に非戦闘員と戦闘員を区別することなく攻撃の対象とする「無差別爆撃」に変化していった。

**◇戦略爆撃**  
日本が初めて空襲を受けたのは1942年4月18日。16機のB25が東京、川崎、横浜の民間人が死亡した(神縄の地上戦の死亡者は除く)。米軍の空襲は当初、軍事標的だけを狙って空爆する「精密爆撃」だったが、次第に非戦闘員と戦闘員を区別することなく攻撃の対象とする「無差別爆撃」に変化していった。

**◇戦況**  
機内砲を備えていた。B29による日本本土の最初の空襲は44年6月15日、北九州の八幡製鉄所を爆撃するたの各島にB29の基地を建設し、11月下旬から日本本土への空襲を開始した。

そこで米軍は44年6月から7月にかけて、米マリアナ諸島を日本軍から奪取すると、サイパン、テニアン、グアムの各島にB29の基地を建設し、11月下旬から日本本土への空襲を開始した。

連日のように東京各地の工業地帯を狙って「精密爆撃」が行われていたが、攻撃目標がより周辺の市民や民家の被害の方が大きかった。

**◇無差別爆撃**  
このような状況を受け、米軍は3月初旬になると、爆撃方法を根本的に変更した。低高度での爆撃に見直し、このため昼間爆撃をやめて夜間爆撃に変えた。

夜間低高度爆撃の最初の攻撃目標となったのが、45年3月10日の東京。この日未明、約300機ものB29が2時間わたりに、23万7千個もの焼夷弾を投下した。東京は火の海になり、10万人以上が犠牲者になったといわれている。1回の空襲被害で広島は原爆が死亡したといわれる。

## 主な空襲年表

1942年4月18日	東京、横浜、川崎、横須賀、名古屋、神戸をB25が初空襲
1944年6月15日	北九州をB29が初空襲
10月10日	那覇、奄美など南西諸島
11月24日	東京をB29が初空襲
1945年1月1日～	東京、名古屋、大阪など主要都市への空襲が徐々に増加
3月10日	東京大空襲
3月17日	大阪大空襲
3月19日	名古屋大空襲
5月14日～6月15日	名古屋、神戸、横浜など大都市空襲
6月中旬～	全国各地の地方都市空襲
8月6日	広島に原子爆弾
8月9日	長崎に原子爆弾
8月14～15日	秋田、小田原、伊勢崎、光、熊谷、大阪などで最後の空襲

終えようとするため「精密爆撃」が難しくなっていた。

東京大空襲を皮切りに、名古屋、大阪、神戸に焼夷弾による夜間の低空絨毯爆撃(数百機編隊のB29が街に隙間なく爆弾を落とす)が行われ、6大都市はほぼ全滅した。次に米軍は地方都市を標的とし、日本各地の街をB29が襲った。

こうした空襲の延長線上に米軍は新型の原子爆弾を使う。8月6日には広島にウラニウム爆弾、8月9日には長崎にプルトニウム爆弾を落とす。広島で45年末までに14万人余り、長崎では7万4千人が死亡したといわれる。